

あとがき

生駒山麓と恩智川流域は縄文時代から水と関わった人々の営みが連綿と続けられてきた地域である。自宅が生駒山麓の河内平野が一望出来る処にあり、生駒の自然と風景に日々接しながら、本来の水環境の研究の枠を超えて「河内平野における人と水との関わりの変遷」を訪ねて来た。本稿の執筆に当たって改めてこの地域の歴史と文化の奥深さを痛感した。何気なく眺めていた道端の石碑にも人々の生業と歴史が込められていることをお伝えしたい。難波の津に着いたいにしえの人々は河内湖の彼方に生駒の山並みを眺めどのような思いを馳せたのであろう。

本稿の執筆に当たり、大阪府八尾土木事務所の方々に現地の案内や資料の提供で大変お世話になった。また、恩智川ネットワーク会議の高山晴行会長から貴重な助言を頂いた。記して謝意を表したい。
(社)日本水環境学会関西支部川部会／土永 恒彌

参考文献

- ・石切史友会(1997)辻子谷の水車, 66pp.
- ・大阪府(2002)淀川水系寝屋川ブロック河川整備計画.
- ・大阪府八尾土木事務所(2009)八尾土木事務所管内図.
- ・宗教社会学の会篇(1985)生駒の神々, 331pp, 創元社.
- ・出水力(1987)水車の技術史, 415pp, 思文閣出版.
- ・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館編(2005)水と祭祀の考古学, 280pp, 学生社.
- ・東大阪市教育委員会(2008)東大阪市文化財ガイドブック, 59pp.
- ・東大阪市教育委員会(2010)東大阪市の遺跡ガイドブック, 108pp.
- ・NPO法人やお文化協会(2011)八尾の史跡, 280pp.
- ・枚岡ネイチャークラブHP
- ・大和川市民ネットワークHP
- [写真提供]
- ・大阪府八尾土木事務所(岩崎谷最上流部)
- ・八尾市立歴史民俗資料館(河内木綿の縞柄・滝縞)

既刊の紹介

- ・みやびな川 編 『白川』(2010) 『鴨川・明神川』(2012)
- ・歴史とロマンの川 編 『瀬田川・宇治川』(2010) 『保津川・桂川』(2011) 『芥川』(2011)
- ・なにわの川・庶民の川 編 『東横堀川・道頓堀川』(2011)

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構
(社)日本水環境学会関西支部川部会
〈企画編集〉(社)近畿建設協会

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる
～ちょっと大人の散策ブック～ 〈なにわの川・庶民の川 編〉

恩智川・生駒の川 (Onchigawa・Ikomonokawa)

〔発行〕平成24年3月

〔発行者〕財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (大手前センタービル4F)

TEL. 06(6920)3035 FAX. 06(6920)3036

<ホームページ> <http://www.byq.or.jp/>

* 散策ブックはホームページ上で閲覧することができます *

BYQ, 2012 Printed in Japan

「 飲める水 遊べる水辺 次世代に 」

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる ～ちょっと大人の散策ブック～

なにわの川・庶民の川 編

恩智川・生駒の川

(Onchigawa・Ikomonokawa)

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構
(社)日本水環境学会関西支部川部会
(社)近畿建設協会



「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構、(社)日本水環境学会関西支部川部会と(社)近畿建設協会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、「源流に行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、それぞれ5、6リーフレットからなる。本リーフレットでは、なにわの川・庶民の川編として、大阪と奈良の境を南北に流れる恩智川と生駒山西麓の諸河川(生駒の川)を取り上げた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

目次

ねらい・目次	
恩智川・生駒の川の概要	02
恩智川上・中流部	03
コラム1 恩智川の水質	06
コラム2 恩智川の洪水と治水	08
生駒の川と恩智川下流部	09
生駒の川	09
コラム3 生駒西麓の水車	12
コラム4 恩智川流域の市民ネットワーク活動	13
恩智川下流部	14

CONTENTS

(表紙写真/恩智川と生駒山)

1

恩智川・生駒の川の概要

恩智川は、生駒山地南端の高尾山の岩崎谷が源流である。この川の起点は柏原市おおがた大泉で、生駒山地西麓を柏原市、八尾市、東大阪市を山麓と平行して北上し、大東市住道で寝屋川本川と合流する延長15.4kmの一級河川である。流量は少ないが降雨時には度々洪水を引き起こし3ヶ所の遊水池(治水緑地)が建設されている。明治初期までは舟運も盛んで、河内木綿や水車産業の製品を寝屋川経由で大坂へ運んだ。流域は旧石器・縄文時代に遡る居住遺跡が点在し、古墳群が数多く点在する。弥

生時代から農耕が盛んで奈良時代には条里制が敷かれ、池島地域には今も条理制遺構が残っている。

恩智川は付け替え前の旧大和川の諸河川(玉串川、長瀬川など)とは独立して山麓に沿って南北に直線的に流下しているため人工の川との説もある。条理地割による水田整備で水路、河川改修が行われ、現在のような直線河川になったと考えられる。

生駒山地は大阪府と奈良県の境にあり、北から飯盛山、主峰の生駒山、高安山、信貴山、高尾山を経て大和川に至る山地である。多くの谷、溪があり19の支川が恩智川に流入する。特に生駒山と高安山の間には河内七谷と呼ばれる溪流がある。西側斜面は傾斜が急で、比較的水量も安定しておりで静寂で静謐な雰囲気が古来から竜神信仰や山岳信仰の拠点として栄え、川沿いには多くの宗教施設が点在する。また、文人が隠遁する庵に格好であった。さらに豊富で安定した水量を生かした水車産業が栄えた。溪流に沿ってハイキングコースが整備されており、四季折々の風景を楽しむことができる。



恩智川・生駒の川流域図



2 恩智川上・中流部

恩智川の源流は柏原市東部の生駒山地の南端に位置する**高尾山**(278m)の**岩崎谷**、**観音谷**である。源流部へは、国道旧170号線大県南を東へ進み、通称「関電道路」に沿って上ったところにある。妙法寺の近くに岩崎谷へ降りる道があるが谷の水量はほとんどない。妙法寺の手前に**観音谷の堰堤**があり、そこに描かれている観音像と伊勢物語の歌(風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ)は大阪教育大学の学生の作品である。ここは大和川が一望できるスポットである。道路をさらに登り関西電力信貴変電所付近が源流の最上流である。

国道旧170号線の太平寺の東を進むと**石神社**が



岩崎谷最上流部



岩崎谷



観音谷の堰堤と観音像



大和川眺望



石神社のくすの木



智識寺の礎石



清浄泉



岩崎谷水路



地下水汲み上げポンプ



恩智川一級河川始点



恩智神社

ある。境内の樹齢700年の**くすの木**は大阪府の指定天然記念物である。境内入り口横に古代の寺院**智識寺**の礎石の掲示(**智識寺東塔刹柱礎石**)と円形の穴が開いた大石がある。智識寺は河内六寺の一つで近くに行宮があったといわれている。続日本紀に聖武天皇、孝謙天皇らが難波宮行幸に際してここを訪れ礼拝礼仏されたという。智識寺には大きな廬舎那仏があり、これを見た聖武天皇が東大寺大仏造営を発願されたと伝えられている。近くに大阪府の代表的湧水の一つの**清浄泉**がある。この清浄泉は歴史が古く、井戸と水脈のある地域が大阪府の文化財として史跡に指定されている。

岩崎谷からの水は関電道路から**大県橋**まで道路沿いの水路に流れている。源流の水量が少ないため、柏原市内の3ヶ所で地下水(揚水量は最大730L/min)を汲み上げ注水している。この施設は大阪府が恩智川の水環境改善を目的に設置した。水路は大県橋で右折し一級河川恩智川として北流する。流れは支川の水をあつめて増加し、平常時は中流部の**福栄橋**下流100m地点で0.59m³/s、下流部の**住道新橋**地点で1.75m³/sとなる。しかし、降雨時には一気に増加し洪水被害を頻発させてきた。このため治水緑地が3ヶ所あり、その一つの**恩智川多目的遊水地(法善寺)**(コラム②参照)の建設が近鉄大阪線法善寺駅の北側で進んでいる。

国道170号線^{かいち}垣内南交差点を東進し、国道旧170号線を南へ少し進むと恩智神社の看板がある。看板に従って、古い石垣の民家が連なる風情のある坂道を上ると河内二宮の**恩智神社**がある。創建は5世紀後半と伝えられている。河内一宮の枚岡神社と共に明神大社を称する式内社であ

る。神社の入口にある湧水は^{あかいど}関伽井戸(清明水)と呼ばれ弘法大師が参詣した折、峡谷の岩底に錫杖を突き立てたときに霊水が湧き出したと伝わっている。天候を予知する清水といわれ、普段は清澄な水が出ている。しかし、雨の降る前になると赤茶色の濁水が流れ出るそうである。

国道旧170号線郡川を東へ上った先に近鉄信貴線信貴山口駅がある。ここから西信貴ケーブルで**高安山**(487m)、**信貴山**(437m)へ登ることができる。信貴山の名は聖徳太子の名付けという。ここに「信貴山縁起絵巻」で有名な^{ちようごそんしじ}朝護孫子寺(信貴山寺)がある。

国道旧170号線の水越東を東へ進み次の交差点を右折すると近くに**八尾市立歴史民俗資料館**がある。資料館は「河内木綿コーナー」を常設している。河内木綿は大和川付け替えの後の河床で綿作りが盛んになり、木綿織りが発展したと伝えられている。河内木綿の文様や柄は多種多様で、縞柄は**河内縞**という言葉があるほど河内木綿の特徴の一つとされている。

歴史民俗資料館の前の道を北へ進むと^{しおんじ}**心合寺山古墳**がある。環濠に沿って遊歩道が整備されており、家族連れの散策にも好適である。古墳の北側に**八尾市立しおんじやま古墳学習館**があり、出土品を展示している。心合寺山古墳は4世紀に始まる^{がくおんじ}楽音寺・大竹古墳群の最後、5世紀初頭の築造で全長160mの前方後円墳は中河内最大の規模である。副葬品から**導水施設形埴輪**が出土した。これは水の祭祀場を表した埴輪で、古墳時代前期から中期にかけて導水施設の遺構が奈良盆地や畿内の数箇所で発掘された。この施設は水の祭祀を行った施設と考えられており高度な治水技術を駆使して造られている。この施設を表し



関伽井戸



近鉄・西信貴ケーブル信貴山口駅



(左) 八尾市立歴史民俗資料館と河内木綿の縞柄



心合寺山古墳



導水施設形埴輪



十三街道



神立茶屋の辻の標識

た埴輪は被葬者の王権を示すもので被葬者は河内に基盤を持つ王と考えられている。

古墳学習館の前を東へ進み大阪経済法科大学の横を超えて坂を上ると奈良県平群との分岐がある。坂を少し下った左手に^{じゅうさん}十三街道への細い道がある。道の少し先に^{こうだち}神立茶屋の辻の標識がある。そのまま進めば水呑地蔵を経て**十三峠**へのハイキング道が続く。十三峠への道は大阪の玉造を起点とする十三街道と呼ばれる奈良三郷への山越え道で、かつては交通の要衝で賑わいを見せた。平安時代の歌人・在原業平が「神立茶屋辻」にあった茶屋の娘に恋をした話は「業平の高安通い」として伝えられている。伊勢物語二十三段の「筒井筒」や能楽「井筒」から生まれたとされており、この言い伝えにより在原業平が通ったとさ

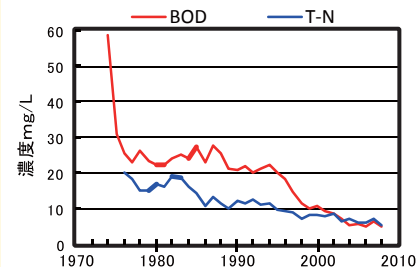
コラム ① 恩智川の水質

寝屋川の水質調査は大阪市立衛生試験所(大阪市立環境科学研究所)において1922年(大正11)から調査が実施されているが、系統的な調査は1932年(昭和7)からである。1933年(昭和8)の調査では寝屋川はその上流は比較的良質であると報告されている。1935年(昭和10)の報告においても、上流において逐年汚染されてゆくが流下に従って汚水の進入が著しいと述べているように寝屋川上流で合流する恩智川の水質は戦後の工業化に従って悪化した。

図に寝屋川合流直前にある基準点の住道新橋地点(D類型)のBOD(有機性汚濁指標)と全窒素(T-N)の経年変化を示した。BODは1974年以降減少し、1980年以降横ばい傾向を示したが、1995年以降急激に減少し2000年以降は5mg/L前後と流域の下水道の整備を反映している。全窒素は1982年をピークに減少しており、BODと同様の傾向を示している。

恩智川は自己流量が少なく、流入する排水の影響を大きく受ける河川で下水道整備の進捗が水質を左右する。したがって高度成長期には中小工場からの工場排水の影響が著しかったが都市化の進行に伴って生活排水の影響が顕著になった。下水道の進捗に従って水質は改善傾向を示している。

2010年度の水質は、健康項目では、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素が検出されたが、環境基準値を満足していた。



〔BODおよび全窒素の経年変化〕

恩智川には恩智川多目的遊水地(法善寺:法善寺洪水流量 $65\text{m}^3/\text{s}$ のうち $30\text{m}^3/\text{s}$ を調節)、恩智川治水緑地(池島・福万寺:洪水流量 $210\text{m}^3/\text{s}$ のうち

玉祖神社

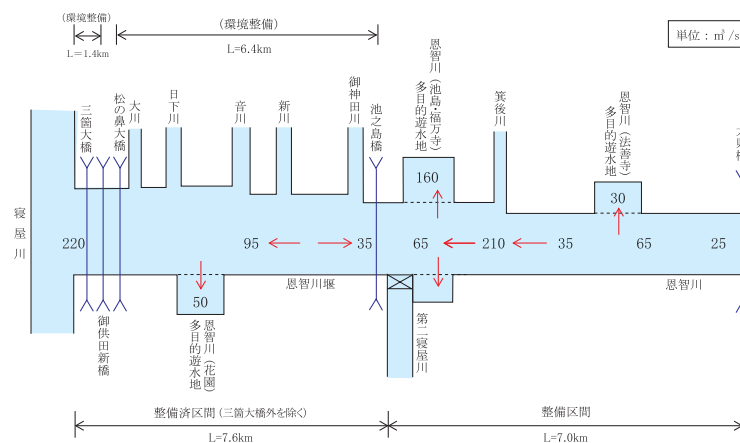
玉祖神社のクスノキ

恩智川治水緑地（池島・福万寺）

池島・福万寺遺構
(地層断面)

池島・福万寺遺跡

計画流量は1957年(昭和32)6月26、27日の戦後最大の雨量を記録した八尾実績降雨量(時間最大雨量62.9mm、24時間最大雨量311.2mm)を基に各地点の流量を推定している。



コラム ② 恩智川の洪水と治水

この地域は山麓を除き大半が洪水時に河川への自然排水が困難になる内水域である。1957年(昭和32)には当時戦後最大の雨量を記録した降雨が発生し、東大阪市等における洪水被害、生駒山系の土砂崩壊など甚大な被害が発生した。さらに都市化の進行によって保水・遊水機能が低下し、都市型洪水が頻発するようになった。1972年(昭和47)には、大東市、東大阪市を中心として延べ約10万戸の家屋等が浸水被害を

「1957年の八戸ノ里駅付近の浸水被害」

生駒山地の西側には多くの谷があり恩智川に流入する。特に**生駒山**(642m)と高安山の間には河内七谷(**鳴川谷**・**客坊谷**・**豊浦谷**・**額田谷**・**辻子谷**・**日下谷**・**車谷**)と呼ばれる溪流がある(谷の名称は源流部の呼称で恩智川に流入する河川名とは別)。谷筋に沿ってハイキングコースが整備されている。この地域には大阪府の代表的湧水に挙げられている鳴川谷湧水、弘法の水、興法寺湧水、龍の口霊泉がある。

3.1 生駒の川

・鳴川谷(鳴川)・客坊谷

中流域まで自然が比較的残っている河

川である。七谷の川のなかで唯一蛍が生息するといわれている。近鉄奈良線瓢箪山駅前商店街を南にしばらく行くと東側に日本三稲荷の一つであり、辻占総本社**の瓢箪山稲荷神社**の鳥居が見える。稲荷神社の南東から客坊谷ハイキングコースを登ると**東大阪市立郷土博物館**がある。博物館の敷地内に**山畑古墳群**の**山畑22号墳**を始め数基の古墳があり見学できる。ハイキングコースをしばらく登るとらくらく登山道の客坊大橋に出る。橋の横に**せせらぎ広場**があり、木栈テラスの横からせせらぎが流れている水辺へ降りることが出来る。

客坊谷ハイキングコースの南側の鳴川



瓢箪山稲荷神社



東大阪市立郷土博物館



山畑22号墳



せせらぎ広場



出合地藏



分水樋



鳴川谷湧水



水車小屋跡と八大龍王神感寺休憩所碑



枚岡神社



生駒山麓からの夕日

谷ハイキングコースの公園近くに**出合地藏**がある。これは、鳴川谷筋の途中にある出合の岩壁の磨崖像の一部を切り取って祭ったものといわれている。公園の前を右側に登ると、鳴川の水を四条村と六万寺村に分けるためにつくられた**分水樋**がある。鳴川谷ハイキングコースの標識に従って暫く登るとらくらく登山道と交差する。そのまま川沿いに登ると途中に**鳴川谷湧水**がある。せせらぎの音を聴きながら川筋にそって堰堤を二箇所越えると**水車小屋跡**の標識と**八大龍王神感寺休憩所の碑**がある。

分水樋の南には**往生院六萬寺**がある。四天王寺の東門から真東にあり、彼岸の太陽は、四天王寺へ向かってまっすぐに落ちてゆく。夕日を見て極楽往生を願う「日観観」を修する場所として修行僧が絶えなかった。楠正行の本陣跡の石碑があり、四條畷の戦で戦死しこの地に葬られたと伝えられている。**往生院民具供養館・歴史館**が併設されているが見学は事前に要相談とのこと。

・豊浦谷(豊浦川・暗溪)

豊浦川の源流は**暗峠**付近である。近鉄奈良線枚岡駅と額田駅の間を東へ数分のところに**府立枚岡公園**がある。公園は野鳥の生息地として有名で、入り口にある**東大阪市立グリーンガーデン枚岡**で行事案内をしている。公園の西端を東西に走っている国道308号は暗峠を超えて奈良へ通じる**なら街道**である。この国道の右側を豊浦川が流れている。椋ヶ根橋を渡って南へ行くと河内の国一之宮で元春日ともいわれている**枚岡神社**がある。祭神は四座あるが、第一殿の天児屋根命は古代の河内一帯に根拠をもち、大和朝廷の祭祀をつかさどった中臣氏の祖神で、第二殿の比売御神はその后神である。神社の南の**枚岡梅**

林には500本近い梅が植えられ2月中旬から3月中旬にかけては観梅の人で賑う。国道を少し上ると**松尾芭蕉の句碑**(菊の香にくらがり登る節句かな)があり、その先の朱色に塗られた**豊浦橋**を渡ると川岸に下りる道がある。この一帯は川岸が整備されて水辺を楽しむことができる。水深も浅く子どもの遊び場として格好のスポットである。豊浦川はこの先国道の右側を流れているが道から水辺へのアクセスは難しい。暗峠へは豊浦橋を渡ると登山道があり展望台を経て神津嶽ハイキングコースから峠へ出る道が一般的である。峠の茶店では季節の食事ができる。峠から数分下った所に**弘法の水**がある。

この豊浦谷(暗溪)と北側の額田谷(長尾溪)、辻子谷(音川)は第二阪奈有料道路トンネル掘削により影響を受けトンネル湧水を返還して水系の状況を維持していた。現在返還水量を上回る水量が観測されている

・額田谷(長尾溪)

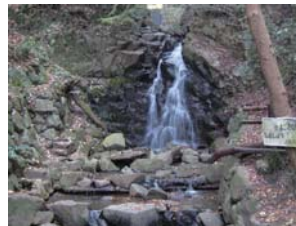
源流は**長尾の滝**の上部である。近鉄奈良線額田駅から真直ぐに山手へ向かって坂を上った枚岡公園の近くに**楠正行の首塚**がある。坂道を暫く歩くと右手に川原が広がる場所があり水辺へのアクセスが可能である。少し先に**長尾山天龍院**(奈良県吉野山の**金峯山修験本宗総本山金峯山寺**の大阪別院)の里坊施設がある。川を左手に見ながらコンクリート舗装の小道を登り、長尾溪の道標を見ながら小橋を渡ると橋の袂に地蔵院がある。途中川沿いには様々な寺院が、山側には地蔵や石仏が点在する。少し先に**水呑地蔵**があり、すぐ上には生駒山系唯一の自然瀑布で長尾の滝の**雌滝**と**雄滝**がある。1583年(天正11)この滝を訪れた前の関白近衛前久公は「たずぬればありと



枚岡梅林



豊浦橋



豊浦橋から見た豊浦川



弘法の水



水呑地蔵



楠正行の首塚



長尾の滝の雄滝



石切神社

もここに山鳥の長尾の奥の滝の白糸」と詠んだ。雄滝は修験道の寺院金峯山天龍院の滝行場になっている。滝の少し上には梵学者の慈雲尊者が約15年間隠棲修行した**雙龍庵跡**がある。

・辻子谷(音川)

源流は生駒遊園地西側山麓付近。上流部の谷を辻子谷と称している。音川は七谷の中で最も水量が多かった。近鉄奈良線石切駅南出口からおできの神様として有名な**石切神社**の参道への道を高架に沿って進み辻子谷への道の標識手前でガードを越えると石畳の登り坂にさしかかる。少し進むと、弘法大師が一夜のうちに爪で刻んだという**爪切地蔵の堂**があり、その横の土壁の屋敷跡に道標がある。ここからは「辻子越」あるいは「打越え」とも呼ばれ、路脇に四国八十八ヶ所に因む

コラム ③ 生駒西麓の水車

生駒山の西麓で、溪流の豊富な水の水力を利用した水車産業が興った。谷の水力を利用した水車産業は江戸時代から起こり、明治～大正期には137台、1943年(昭和18)頃でも70台近かったが、1983年に姿を消した。この地域に水車が栄えた背景には①流域に占める山地面積が大きく流量が安定していたこと、②山間部に位置し落差を利用した「上掛け水車」を利用したこと、③農業用水との競合が少なかったこと、④この地域が江戸時代から大和と摂津(大阪)を結ぶ交通(船運)の要衝として栄えた地域であったこと、⑤原料と生産物の主たる需給地である大阪に近く輸送の便が良かったことなどが挙げられる。

製品は寛文年間の辻子谷での胡粉製造が始まりとされているが、菜種、綿実、精米、漢方薬の粉末、伸線など多種に及んでいる。このうち日下谷、辻子谷、額田谷では和漢生薬の薬種細末や粉末加工が主であり、1943年(昭和

18)においても58台あったと言われている。電力の動力の普及に従って水車が減少する中で動力の熱を嫌う粉末加工が主の辻子谷の水車は1960年代まで残った。一方豊浦谷の水車は伸線業と呼ばれる針金製造が主であった。伸線の歴史も古くその起こりは天保年間と云われている。この伸線にすでに辻子谷で盛んであった水車が利用された。水車による伸線業は大正末期にはほとんど電力に替わってなくなっていった。



〔辻子谷の復元された水車〕

「石仏」がある。**辻子谷の石仏**として有名である。この道は、山岳寺院の古刹興法寺を経て「宝山寺」へ通じる信仰の道であった。石仏の祠は様々で1番から番号が刻まれている。漢方薬の匂いが漂う道を左手に辻子谷を見ながら暫く上ると**辻子谷水車郷**の看板が見える。地元の有志によって水車(コラム③参照)が復元され展示されている。

集落を抜けて辻子谷の右岸に渡り、しばらく急坂を上ると**興法寺**の石段に出合う。石段の前に**興法寺湧水**がある。興法寺は役行者の創建、本尊の木造十一面観音は行基作と伝えられている。

・日下谷(日下川)

源流は近鉄旧生駒トンネル付近であるが水量は少ない。旧国道170号線日下四丁目近くに縄文時代晩期の貝塚として知られている**日下貝塚跡の碑**がある。日下川と交差し東へ進むと左手に黄檗



爪切地蔵の堂



辻子谷の石仏



辻子谷水車郷

コラム ④ 恩智川流域の市民ネットワーク活動

恩智川環境ネットワーク会議(高山晴行会長)は恩智川を中心とした水辺環境の再生を目指して2000年に恩智川流域三市の環境団体が実施した「恩智川フェスティバル」の取り組みを発展させるため、市民が主体的に活動する場として発足した。行政を含め約30団体で構成されており、「恩智川フェスティバル」、「恩智川クリーンアップ」などの催しを企画し、各団体間の交流と、中河内での広域的事業の実施に努めている。

恩智川は生駒、高山山麓の水を集めた川であり、大和川の水を直接には取水していないが、隣接の玉串川、長瀬川や平野川は、旧大和川として現在も直接取水する樋門が稼働しており、中河内を潤している。このことから、中河内では寝屋川水系よりも、大和川水系に属しているという意識が強く、市民活動も大和川市民ネットワークとのかかわりが強くなって

いる。大和川市民ネットワークは、奈良盆地と河内平野を包含する大和川流域の市民活動をつなぐ場として2008年に設立されたもので、「大和川の日」市民の集いを初め、数々のイベントを企画し、流域交流を展開している。

また、生駒山麓と枚岡公園を拠点に多彩な自然観察を中心に活動している組織として、枚岡ネイチャークラブがある。



〔恩智川クリーンアップの状況〕



第二寝屋川分岐点
(左側、右側は北流する恩智川)



恩智川(花園)多目的遊水池



花園ラグビー場



中甚兵衛顕彰碑



加納緩衝緑地公園と親水施設

伽藍の趣を今に残している**大龍寺**がある。その先に神武天皇東征伝説の**日下之直越道**の道標がある。旧国道170号線善根寺バス停の北側に神武天皇東征伝説の**盾津浜石碑**がある。その東の春日神社の北側で阪奈道路を横切った所に**龍の口霊泉**がある。春日神社の造酒神事の清水はここで汲まれた水で行われる。

3.2 恩智川下流部

恩智川が治水緑地の北端で**第二寝屋川**を分岐し、長門川を合わせて北流した所に**恩智川(花園)多目的遊水池**(コラム②参照)がある。平常時は野球場等のスポーツ施設として市民に開放されている。隣に**花園ラグビー場**がある。

恩智川流域は河内湾あるいは河内湖の東側にあたり、付近からはクジラの骨が出土している。縄文時代から古墳時代に至る遺跡が随所にある。国道308号線の水走付近に弥生時代中期の環濠を伴う集落として知られる**鬼虎川遺跡**がある。近鉄けいはんな線新石切駅の東側から石切神社周辺に**神並・西の辻遺跡**がある。この遺跡は、上流の谷からの水を堰で流れを変え、池を連ねて木樋で導水する大掛かりな装置を設けた祭祀のための導水施設があったことで知られている。出土品は**東大阪市立埋蔵文化財センター**で展示されている。近鉄けいはんな線吉田駅北側の今米公園内に大和川付け替え工事の功労者**中甚兵衛顕彰碑**がある。国道170号線を北上し布市交差点を左折し橋を渡ると**加納緩衝緑地公園**があり、恩智川左岸に下りる親水施設が設置されている。この先寝屋川合流部までは垂直護岸で川には近づけない。大東市住道で寝屋川に合流する。